

魂の救いのための祈り

とりなしの祈り⑤

マタイ15:21～28

ローマ8:23～26

聖書は、キリストの十字架を信じて永遠のいのちに与る事を、「新しく生まれる」とか「新生する」という言葉を用いています。罪人の心がキリストと共に死に、ご聖霊により新しく生まれ変わり、永遠のいのちに生きることです。それは人間の母親が子どもを生み出すのに似ています。神様は母親が子を産むときのような「産みの苦しみの祈り」という、苦しいとさえ表現される、生み出す祈りを求めておられるのです。

私たちは自分の親しい人の救いのために祈ります。しかし、その人のために強い求めが起こされ、不思議に「熱心に祈る」、「祈らずにいられない」という思いになり、祈り続けていると、その人が変えられ、イエス様を信じるようになります。

主は「生み出す祈り」を必要とされます。用いられます。ご聖霊は私たちが熱心に祈るように導かれます。出産が始まるときのように、私たちが祈り始めると、そのときから、新しいいのちを生み出される御業が、急に進み始めるのです。

聖書の学び

I、新しいいのち…永遠のいのち

1、イエス様は「神の国」に入るための条件を、どのように言われましたか。(ヨハネ3:3)

2、「新しく生まれる」とは、何によって生まれることでしょうか？
(ヨハネ3:4～6)

3、「御霊」の働きは、どのようなことを起こすでしょうか。

- ①神様のことについて、分かるようにする。
- ②自分の罪について、分かるようにする。
- ③イエス・キリストの十字架の贖いについて、分かるようにする。(ヨハネ3:16)
- ④「信仰」が与えられる。

II、主が用いられる、産みの苦しみの祈り (マタイ15:21～28)

1、イエス様に近づいた母親の姿から、産みの苦しみの求めにより、子が救われたことを学びます。

①この母親は、イエス様に出会った時から、激しく求め始めました（マタイ15:22）

- ・長年、娘が悪霊から解放されるのを求めて来た… 救いのために祈って来た期間がある。
- ・娘に対する母の愛による求め… 体内に祈っている人を宿している状態。

②娘を助けて下さるように、イエス様に苦しくても求めた母親（マタイ15:26～27）

- ・イエス様の愛と力を信じて諦めない… 心の戦場で、不安や心配と戦い勝利する祈り。
- ・チャンスを逃さない緊迫感があり… この時しかない。逃したら救われないという思い

2、イエス様は、娘本人ではなく、母親の祈りに答えられた。

- ・救いのためにも、熱心に祈る人の祈りに、応えて下さる。

Ⅲ、ご聖霊と共に、産みの苦しみの祈り

*ローマ 8章23～26節を読みましょう。

①23節の「御霊の初穂を頂いている」→これはクリスチャンのことです。

クリスチャンは、何をうめいているのでしょうか？

*永遠のいのちに与るとき、栄光のからだに変えられるのを待ち望みながら、・・・

***イエス・キリストを信じるように選ばれていても、まだ救われていない人が救われるように、クリスチャンたちも、うめいている。**

②26節の前半の「御霊も、弱い私たちを助ける」とは、御霊はクリスチャンが何をするのを、助けて下さるのでしょうか？

***クリスチャンが求道者のために祈る、祈りを助けて下さる**

③26節の後半「御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなして…」
この、御霊のうめきとは何でしょうか？

***ご聖霊が、救われる人が、新しく生まれるために、生み出すうめきをもって生み出され、**

そのとき、クリスチャンたちが祈る事が出来るように、とりなして下さっておられるのです。